

## 「北海道・北東北の縄文遺跡群」世界遺産登録に係る知事コメント

「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録が決定されました。

平成21年の北海道・北東北知事サミットの後、4道県の知事で世界遺産への登録を話し合ってから12年、ついにこの日を迎えることができ、万感の思いであります。

これまでの関係各位の御努力に敬意を表するとともに、県民の皆さまの御支援に感謝申し上げます。

本縄文遺跡群は、1万年以上の長きに渡り続いた、農耕以前の自然と共にした人類の生活のあり方を示したことが評価されたものであり、大湯環状列石や伊勢堂岱遺跡は、当時の複雑な精神文化や思考に触れることのできる場所であります。

こうした文化や思考は、私たちが目標とする「地球環境を壊さずに持続可能な形で発展する社会の実現」につながるものであり、このたびの登録は、多くの県民が貴重な文化遺産を見つめ直す良い機会となるとともに、確実に次の世代に引き継いでいくという大きな使命を負うものと考えております。

世界自然遺産の白神山地を含め、郷土にこのような素晴らしい遺産が残されていることに誇りを持ち、国内はもとより海外の方々にも広く知っていただけるよう、皆さんと一緒に保存活動に取り組み、しっかりと未来へ継承してまいります。

令和3年7月27日

秋田県知事 佐竹 敬久